

緑化委員会広報

安全第一をスローガンに

平成23年度新役員を選出

緑化委員会は5月8日、平成22年度第4回委員会を開き、平成23年度の新体制を決めました。委員長は林勘治、会計書記は田上順次の両氏が留任、副委員長に新たに脇文雄氏を選出。輪番制の新役員には香村、会田、阿部、加藤、古閑、富田の6氏が就任しました。

緑化委員会は、その活動を通じて、ホームタウン鶴牧の景観向上と管理組合費の節減、居住者のコミュニケーション向上に多少なりとも貢献してきたと自負しています。

私たちの団地も築20年を越え、樹木もずいぶん大きくなりました。緑化委員会が装備する道具や機器類も充実した反面、脚立等を使用している高所での作業も増え、操作を誤れば大けがを



ユキヤナギの整備と除草

いつまでも若くはありません。安全第一を考えた事故のない植栽作業に心掛けましょう。

緑化委員会の新年度がスタートします。今年も事故なく皆さんが植栽作業を楽しく実施するために、安全作業について再確認をしたいと思えます。

一、高木剪定（ナンキンハゼ）や、草刈り機、バリ

しかねない状況下に直面しています。幸いにして、今まで事故はなかったものを経験しました。

それらの背景には、私たちの作業に対する「慣れっこ気分」がなかったとは言えませんが、一度、大きな事故が起きれば、緑化委員会の存続自体が問われることになりかねません。せっかく20年近く積み上げてきた私たちの活動を継続してゆかためにも、油断大敵です。

23年度は「安全第一」を合言葉に、新生「緑化委員会」を目指そうではありませんか。

新たに副委員長に就任した脇氏を中心に作業中の注意事項等をまとめ、みんなが順守しながら、事故のない活動を推進していきましょう。（田上順次）

カン、チェーンソー等の機械を使用する作業は特に危険が潜んでいます。

二、作業靴は地下足袋や運動靴で滑りにくいものを選び、履く。

無理せず楽しく植栽作業

体力過信は禁物

三、脚立、はしごを使用する場合は、必ず他の人に脚部を押さえてもらう。

四、一般の人が通行する

基本守り手間を惜しまない
多摩市緑樹研修会に参加して

実家の樹木手入れや団地の緑化活動で、刈払機やチェーンソーなどの機器に触れる機会がこれまで時々ありました。しかし、見よう見真似で「これで良いのか」と気にならなげながらの作業でした。そんな時、「たま広報」で緑樹研修の記事を見つけた、受講しました。

昨年6月から半年間に延べ8日間、①刈払機による草刈り、②ヘッジトリマー（バリカン）による刈込み、③剪定作業の基本、④チェーンソーの取扱いの4講座を受講、テキストを使った受けました。

受講者の中には居住している団地の緑化活動をされている人など市民約20人が

場所などで作業を行う場合は、バリケード等で立ち入り禁止の措置を取り監視人を置く。

安全作業に一番重要なこととは決して無理をしないことです。緑化委員の皆さんは年の割りには若くお元気ですが、決して体力を過信することなく、今年も元気に頑張りましょう。（徳原 稔）

定例作業報告

(2月～5月)

1月25日～3月31日 造園業者「風雅苑」による年1回の中高木の剪定（せんでい）作業を実施。周回道路周辺と緑道、3、4号棟法面、大松台小学校側緑道の樹木243本を剪定。

2月6日(日)定例作業。東側法面下のナンキンハゼ16本を剪定。終了後、防災委員会から同日午後に関係された防災訓練の一環として非常時の炊き出し要請を受け、ベテラン・シェフがけんちん汁を調理、振る舞った。

2月27日(日)新理事會引き継ぎに伴う備品の棚卸し。役員会メンバーを中心に対応。

2月27日(日)炊き出し用のかまど2台のさび止め塗装（有志）。

3月6日(日)定例作業。敷地内の樹木への施肥作業。終了後、緑化委員会を開催。

4月3日(日)定例作業。不要になった高木の添え木撤去作業と備品の整備、手入れ作業。

5月8日(日)定例作業。東側法面の整備。ユキヤナギノ剪定。終了後に緑化委員会を開催。新役員選出と新年度の作業方針を協議した後、懇親会。

(脇 文雄)

児童と「昔遊び」で若返り？

近隣小学校の社会授業に参加

竹馬、こま回し、けん玉などは、われわれ子どもの頃の懐かしい遊びの一つですが、三年前からこれらの遊びを小学校の児童たちと一緒にやる社会授業が催されている。私も毎回、誘われて参加し、しばし童心に返って楽しんでいきます。

近隣の小学校から子どもたちにテレビゲーム以外の遊びの楽しさを知ってもらおうと、地域の老人会に「子どもたちに昔遊びを教えてほしい」と要請があったのが始まりです。毎朝、ラジオ体操に顔を出している緑

対象児童は、大松台、南鶴牧両小学校とも一年生ですが、今年の南鶴牧小学校では二年生も加わったため、「二日間授業」になりました。おば様族は折り紙、あやとり、お手玉、おはじきを担当。体力勝負の竹馬、けん玉などを担当したおじ様族の中には、翌日以降、腕、腰が痛いとか嘆く人も出る有様。わずか1時間程でしたが、年は取りたくないと感じました。

学習机で児童と一緒に給食をご馳走になり、会話も一段と弾んで楽しいひと時を過ごしました。参加した

巨大地震の揺れに仰天

被害防いだ突つ張り棒

東日本大震災が発生した3月11日午後2時46分すぎ、アクアブルー多摩の2階更衣室にいた。海水パンツに着替えて3階プールに向かう直前に大きな揺れに襲われました。

更衣室には4人の利用客と清掃作業員がいました。が、更衣ロッカーの扉が激しく開閉し、天井は今にも落ちそうなほどゆがみ、生

ことで、少しはポケ防止や体力の若返りに役立つかな？と考えているのですが。(香村義隆)

きた心地がしませんでした。間もなく強い揺れが収まり、何事も無かったかのよう静けさが戻ったので、プールにも入らず急ぎ帰宅しました。

部屋に入ると、地震による被害はほとんどなく安心。昨年、多摩市から支給された突つ張り棒の補強と、L字鋼による本箱、食器戸棚の固定、つり戸棚等

東日本大震災に義援金寄付

緑化委員会有志

緑化委員会は5月8日、東日本大震災の被災者を支

援しようとして会員有志から募った義援金3万6千円を日本赤十字社に寄付しました。会員の中には身内の方が被災され、被害を受けた人たちもいると聞いていますが、災害に負けず頑張つて復興されることを祈っています。

編集後記

◇：緑化委員会の植栽作業で事故防止のための基本の手順や心構えについて、徳原、脇の両氏に寄稿してもらいました。技術指導者の指揮の下で、安全作業に心掛けましょう。

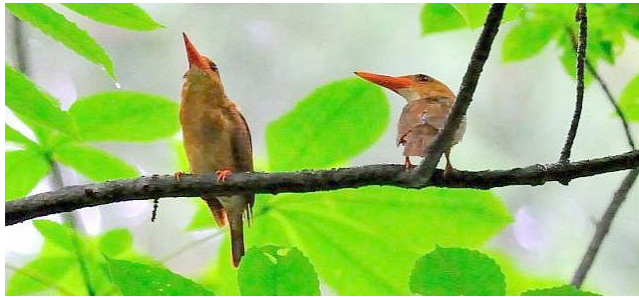
◇：野鳥の生態を追い続けるバーダー(野鳥観察者)の山城氏が、貴重なつがいのアカショウビンと給餌するカワセミの写真を提供してくれました。

◇：巨大地震の発生直後、緊急停止した2号棟の全エレベーター内の安否確認に走りました。駐車場では大型バイクが横転、南側斜面で作業中だった造園業者の安全も確認できました。

◇：駅のエスカレーターなどが軒並み運転停止し、高齢者にとって外出時、厳しいご時世が続いています。被災地の復興と福島原発の早期終息を願っています。(富田)



雌に給餌するヤマゼミの雄 (右)



アカショウビンの雄と雌



アユを捕らえたミサゴ

貴重な野鳥、執念でキャッチ

ヤマゼミ、カワセミは、繁殖時期に入り、雄が雌に餌をプレゼントする瞬間を撮ることができました。ヤマゼミは警戒心が強く、小倉橋(相模原市)で観察できること自体珍しく、日中はあまり姿を見せません。

アカショウビンは、バーダー(野鳥観察者)憧れの赤い鳥。なかなかお目にかかれませんが、幸運にも雄と雌を一緒に撮ることに成功し感激しました。雨が降る悪天候の中での撮影で、衣服がずぶ濡れになり、露出合わせに苦労しました。

ミサゴのダイビングは迫力がありました。アユをゲットした一瞬の写真ですが、来年はもっと大物をゲットした瞬間を撮りたいと思っています。相手があまり大物(コイ)だと、ミサゴも水中に引っ張り込まれ、獲物と一緒に死んでしまうこともあるそうです。

鳥にとっても生きるか死ぬか、文字通り決死のダイビングになります。(山城 詢)